



TITLE:

霊長類の発生・発達・加齢に関する研究(V 共同利用研究 2.研究成果)

AUTHOR(S):

CITATION:

霊長類の発生・発達・加齢に関する研究(V 共同利用研究 2.研究成果).
霊長類研究所年報 2000, 30: 143-144

ISSUE DATE:

2000-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/165312>

RIGHT:

(5) 平成11年度で終了した計画研究

霊長類の発生・発達・加齢に関する研究

(実施年度：平成9年～11年度)

(推進者：林 基治・小嶋祥三・景山 節・
濱田 稔・中村克樹・清水慶子・大蔵 聡)

本計画研究は、霊長類の発生・発達・加齢現象を分子から行動レベルまで広範囲に調べ、霊長類の個体発達の特徴を明らかにすることを目的として平成9年度から11年度まで3年間実施された。平成9年度は6件、平成10年度は9件、平成11年度は7件の研究が採択された。実施された研究は、培養線維芽細胞や卵子、精子をもちいた細胞の発達加齢の研究、サル脳内特異遺伝子の検索とその発達の研究、大脳皮質内の神経細胞やシナプスの形成発達研究、血管系や骨の加齢研究、運動機能、認知機能の加齢変化に関する研究等多岐にわたった。また本研究計画のまとめとして研究会「霊長類の発生・発達・加齢に関する研究」を平成11年12月9日・10日に開催し、有意義な発表と活発な討論が行われた。

本研究計画で行われた研究題目と研究者は以下のとおりである。

(平成9年度)

- ・霊長類大脳皮質のドーパミンによるシナプス形成発達機構の解明

岡戸信男、濱田 俊、首藤文洋
(筑波大・医)

- ・斃死サル生殖器官を用いた胚生産の可能性の検討
細井美彦、入谷 明
(近畿大・生物理工)

- ・ニホンザルの登攀・下降運動の発達
茶谷 薫 (大阪医科大)

- ・発達過程に見られるサル大脳皮質内神経細胞の特性

山下晶子 (日本大・医)

- ・旧世界ザルの細胞レベルにおける老化現象の研究

清水祐子 (東京大・理)

- ・x線撮影によるニホンザル腰椎の加齢変化に関する研究

郡司晴元 (京都大・理)

(平成10年度)

- ・霊長類線維芽細胞における老化・不死化

清水祐子 (東京大・理)

- ・霊長類の血管の加齢

東野義之、東野勢津子
(奈良県立医大)

- ・老齢ザルにおける認知機能低下の特徴-前頭葉・側頭葉に関する課題を用いて

久保南海子 (日本女子大・人間社会)

土田順子 (京都大・理)

- ・霊長類大脳皮質における領野特異的遺伝子発現の発生・発達にともなう変化

渡我部昭哉、栃谷史郎
(基礎生物研)

- ・霊長類大脳皮質のドーパミンによるシナプス形成発達機構の解明

岡戸信男、工藤信一、林明日香
(筑波大・医)

- ・pQCTによるニホンザル腰椎の骨密度の加齢変化に関する研究

郡司晴元 (京都大・理)

- ・骨密度計測器 (pQCT) によるニホンザル前腕の骨密度の加齢に関する研究

菊池泰弘 (京都大・理)

- ・ニホンザルの登攀・下降運動の発達

茶谷 薫 (大阪医科大)

- ・サル死体生殖器官由来配偶子を用いた胚生産の検討

細井美彦、入谷 明
(近畿大・生物理工)

(平成11年度)

- ・老齢ザルにおける認知機能低下の特徴-前頭葉・側頭葉に関する課題を用いて

久保南海子 (日本女子大・人間社会)

- ・霊長類の血管の加齢

東野義之、東野勢津子 (奈良県立医大)

- ・霊長類大脳皮質における領野特異的遺伝子発現の発生・発達にともなう変化

渡我部昭哉、栃谷史郎、小松勇介
(基礎生物研)

- ・サル死体生殖器官由来配偶子を用いた胚生産の検討

細井美彦、入谷 明 (近畿大・生物理工)

(5) 平成11年度で終了した計画研究

霊長類の発生・発達・加齢に関する研究

(実施年度：平成9年～11年度)

(推進者：林 基治・小嶋祥三・景山 節・
濱田 稔・中村克樹・清水慶子・大蔵 聡)

本計画研究は、霊長類の発生・発達・加齢現象を分子から行動レベルまで広範囲に調べ、霊長類の個体発達の特徴を明らかにすることを目的として平成9年度から11年度まで3年間実施された。平成9年度は6件、平成10年度は9件、平成11年度は7件の研究が採択された。実施された研究は、培養線維芽細胞や卵子、精子をもちいた細胞の発達加齢の研究、サル脳内特異遺伝子の検索とその発達の研究、大脳皮質内の神経細胞やシナプスの形成発達研究、血管系や骨の加齢研究、運動機能、認知機能の加齢変化に関する研究等多岐にわたった。また本研究計画のまとめとして研究会「霊長類の発生・発達・加齢に関する研究」を平成11年12月9日・10日に開催し、有意義な発表と活発な討論が行われた。

本研究計画で行われた研究題目と研究者は以下のとおりである。

(平成9年度)

- ・霊長類大脳皮質のドーパミンによるシナプス形成発達機構の解明

岡戸信男、濱田 俊、首藤文洋
(筑波大・医)

- ・斃死サル生殖器官を用いた胚生産の可能性の検討
細井美彦、入谷 明
(近畿大・生物理工)

- ・ニホンザルの登攀・下降運動の発達
茶谷 薫 (大阪医科大)
- ・発達過程に見られるサル大脳皮質内神経細胞の特性
山下晶子 (日本大・医)

- ・旧世界ザルの細胞レベルにおける老化現象の研究

清水祐子 (東京大・理)

- ・x線撮影によるニホンザル腰椎の加齢変化に関する研究

郡司晴元 (京都大・理)

(平成10年度)

- ・霊長類線維芽細胞における老化・不死化

清水祐子 (東京大・理)

- ・霊長類の血管の加齢

東野義之、東野勢津子
(奈良県立医大)

- ・老齢ザルにおける認知機能低下の特徴-前頭葉・側頭葉に関する課題を用いて

久保南海子 (日本女子大・人間社会)

土田順子 (京都大・理)

- ・霊長類大脳皮質における領野特異的遺伝子発現の発生・発達にともなう変化

渡我部昭哉、栃谷史郎
(基礎生物研)

- ・霊長類大脳皮質のドーパミンによるシナプス形成発達機構の解明

岡戸信男、工藤信一、林明日香
(筑波大・医)

- ・pQCTによるニホンザル腰椎の骨密度の加齢変化に関する研究

郡司晴元 (京都大・理)

- ・骨密度計測器 (pQCT) によるニホンザル前腕の骨密度の加齢に関する研究

菊池泰弘 (京都大・理)

- ・ニホンザルの登攀・下降運動の発達

茶谷 薫 (大阪医科大)

- ・サル死体生殖器官由来配偶子を用いた胚生産の検討

細井美彦、入谷 明
(近畿大・生物理工)

(平成11年度)

- ・老齢ザルにおける認知機能低下の特徴-前頭葉・側頭葉に関する課題を用いて

久保南海子 (日本女子大・人間社会)

- ・霊長類の血管の加齢

東野義之、東野勢津子 (奈良県立医大)

- ・霊長類大脳皮質における領野特異的遺伝子発現の発生・発達にともなう変化

渡我部昭哉、栃谷史郎、小松勇介
(基礎生物研)

- ・サル死体生殖器官由来配偶子を用いた胚生産の検討

細井美彦、入谷 明 (近畿大・生物理工)